

安全の手引き

～南仏で楽しい時を過ごすために～



©

2021年2月
在マルセイユ日本国総領事館

はじめに

南仏は、快適な地中海気候や美しい自然、多彩な文化で人々を魅了し、世界中から多くの観光客が訪れています。しかしその一方で、観光客を狙ったスリや強盗が毎日のように発生しており、麻薬密売組織間の銃撃事件や殺人事件などが多発している地域もあります。

フランス国内では多くのテロ事件が発生しており、2017年10月にはサン・シャルル駅（マルセイユ）、2018年3月にはトレーブ（カルカソンヌ近郊）、2020年10月にはニースの教会において発生し、死傷者が出ています。

この手引きは、観光などで南仏を訪れる方、また南仏で生活されている方を対象にした安全で安心な生活をおくるための指針です。南仏における生活の中で考えられる事態への対処方法などをまとめてあります。

今回の改訂では、2019年12月末に中国の武漢で発生した新型コロナウイルス（COVID-19）の流行により、多数の感染者及び死者が発生し、感染拡大を防ぐため外出制限が設けられる事態となりましたので、衛生管理関連の情報も掲載しました。

皆様には、安全対策の重要性を認識したうえで、適切な対策をとっていただきますようお願いいたします。

皆様の南仏生活が、より楽しく思い出深いものとなるようにお祈りしております。

2021年2月

在マルセイユ日本国総領事館
領事班

目次

	ページ
I 防犯の手引き	
1 基本的な心構え	1
(1) 意識改革「自分の安全は自分で守る」	
(2) 危機管理「情報収集の重要性」	
(3) 準備と取るべき行動「備えあれば憂いなし」	
(4) 安全のための三原則	
(5) 住居の安全対策	2
(6) 現地社会に溶け込む	
2 最近の犯罪発生状況	2
3 邦人の犯罪被害事例	3
4 防犯のための具体的注意事項	4
(1) 外出時（観光時）	
(2) 日常生活	5
5 犯罪被害に遭ったときの対応	5
(1) 警察への届出	
(2) 旅券紛失時の発給手続き	6
(3) クレジットカード紛失時の使用停止手続き	
6 テロ対策	7
7 衛生管理	8
8 緊急連絡先電話番号（警察等）	9
II 緊急事態対処マニュアル	
1 総論	10
【平素の心構え】	
【準備】	11
【緊急時の行動】	12
2 緊急事態に備えてのチェックリスト	13

I 防犯の手引き

1 基本的な心構え

(1) 意識改革「自分の安全は自分で守る」

フランスにおいては、社会構造や法律、制度、慣習などが日本と異なることから、日本と同じような行動をしていては自分や家族の身の安全を守ることはできません。何よりもまず「自分と家族の安全は自分たちで守る」との強い心構えが大切です。

(2) 危機管理「情報収集の重要性」

事件・事故・災害などに巻き込まれないようにすることが最善であり、そのためには安全に関する情報収集が重要です。

新聞、インターネット、各種SNS、当館の領事メール等から、お住まいの地域の政治・経済情勢、治安情勢や宗教、文化、習慣、対日感情といった生活に密着した情報など安全に関わる情報収集に努めましょう。家族や友人と情報共有することも有効です。

(3) 準備と取るべき行動「備えあれば憂いなし」

常に最悪の事態を想定し、例えば「自分の身の周りで銃器・刃物利用のテロが発生した時に取らなければならない行動」や「満員の地下鉄やバス等の公共交通機関に乗車した時に窃盗等の被害に遭わないようするために必要な対策」(Ⅱ. 緊急事態対処マニュアルを参考にしてください)をあらかじめ考え、実行することが犯罪被害防止に極めて有効です。万全の対策を講じた上で楽しく生活することが重要です。

(4) 安全のための三原則①「目立たない」、②「行動を予知されない」、③「用心を怠らない」

これは当然のように思えますが、これを守って生活することは容易ではありません。日本での行動形態、生活様式をそのまま海外に持ち込むと、自分が意識しているか否かに関わらず目立ってしまい、自らを危険にさらすことになる場合もあります。

① 「目立たない」：必要以上に華美な服装や装飾品をつける、現地ではあまり見かけないような目立つ車に乗る、公共の場（飲食店、バーなど）で大きな声で現地の悪口を言う、政治、宗教、文化、習慣、生活環境などを批判することは、目立つばかりでなく狙われる原因にもなるので差し控えます。犯罪者やテロリストは、標的を選ぶ際に、まずは目立つ人物に目を付ける傾向があります。

② 「行動を予知されない」：行動のパターン化（通勤、通学、買物、娯楽、外食の際の移動ルートや時間などの固定化）は、犯罪者、テロリストなどに攻撃計画を立てやすくさせてしまいますので、移動の際のルートなどを予測されにくい行動をとりましょう。

- ③ 「用心を怠らない」：現地に着いた当初は安全に気を配っていても、月日が経過し、現地での生活に慣れが生じてくると、当初注意していたことを忘れがちになり、思わぬ被害に遭うことがあります。また、現地の治安状況は予期せぬことが原因で大きく変化することもありますので、家族全員、会社全体で気持ちを引き締める機会を定期的に持つことが必要です。

(5) 住居の安全対策

住居は生活の基盤であり、その安全を確保することは安全対策の中でも最優先事項です。住居の安全が確保できなければ、仕事や日常生活にも悪影響を与える結果となりかねません。したがって、住居の選択には十分過ぎるくらいの検討をおこない、可能な限りの費用をかけることが必要です。旅行先でも、ホテルの場所や設備をよく調べ、安全に滞在できるようにしましょう。

(6) 現地社会に溶け込む

現地コミュニティ、隣人などの「口コミ」情報は、事柄の内容、また地域によっては、極めて貴重な要素を含んでいることもあります。普段から、隣人・コミュニティ・在留邦人の方々などと付き合い、良好な関係を持つように努め、様々な個人や組織との間でネットワークを築くように心がけましょう。そうすることで現地の生の情報が入手できますし、いざという時に助けが得られるかもしれません。

円滑なコミュニケーションを図る上で、フランスやお住まいの地方などに関する書籍などに目を通しておくとい良いでしょう。

2 最近の犯罪発生状況

南仏は、フランスのその他の地方と比較して犯罪の発生率が高い傾向にあります。特にマルセイユやニースのような大都市、観光地では窃盗、強盗、殺人等の犯罪が多く発生しており、邦人旅行者が金品を窃取される被害が多くみられます。また、マルセイユでは麻薬密売組織間の抗争に伴う銃撃事件が発生しており、多数の死者が出ています。

(1) 殺人事件

殺人事件の多くは、麻薬密売組織間の抗争に伴うもので、カラシニコフ銃などの銃器が使用されます。これらの抗争の多くはマルセイユ、ニース、トゥールーズで発生しています。銃撃戦は、日中の市街地やレストランでも発生しており、抗争に関係のない一般人が巻き込まれる危険性があります。

(2) 強盗・窃盗事件

マルセイユやニースのような観光地では、すり、置き引き、ひったくり、車上狙いといった犯罪が多数発生しています。犯人は、狙いやすい観光客を探し、レストランやカフェで椅子の背もたれにかけたハンドバッグや床に置いたスーツケース、駅で電光掲示板や地図を熱心に読んでいる観光客が背負っているリュックサック、レンタカーの中に置

きつ放しのハンドバッグなどを狙っています。複数人でグループを構成していることもあり、グループの一人が観光客に声をかけて注意を逸らせている間に共犯者が貴重品を窃取する事例も多く報告されています。

盗難被害が多いのは、観光名所、駅、空港、カフェ、レストラン、ホテルのロビー、市場、電車やバスなどの公共交通機関内などです。

強盗では多くの場合、素手による暴行以外に、銃、ナイフなどの武器が用いられています。

(3) 麻薬関連事件

南仏（特にマルセイユ、ニース、トゥールーズ）では、麻薬の密輸密売・使用が頻繁になされています。これらの取引に伴う密売組織間の抗争が発生しており、時には白昼でも銃撃戦が繰り広げられています。

(4) 暴動

7月14日の独立記念日や大晦日などの大きな祭事の際、興奮した群衆が駐車中の車両を横転させたり、火をつけたりする破壊行為が発生しています。2015年大晦日では全仏で800台以上の車両が被害に遭いました。また2018年11月中旬から仏全土で「黄色のベスト」を着用した人々によるデモがおこなわれ、時には暴徒化し、デモに便乗した集団によって様々な破壊行為が行われています。

3 邦人の犯罪被害事例

(1) 強盗被害

- ・深夜、友人と2人で帰宅していたところ、後ろから来た男からけん銃を突きつけられ、ハンドバッグを強奪された。付近の住民が助けに来てくれたので、一緒にバッグを取り返そうとしたが、けん銃で首を殴られてケガをした。(ニース)
- ・2人で観光をしていたところ、けん銃とナイフで武装した男3人に持ち物をすべて奪われた。犯人を追いかけたところ、けん銃で頭を殴られてケガをした。(アルル)
- ・単独で観光中、近づいてきた複数の若者からいきなり催涙スプレーを顔面に吹き付けられ、ひるんだ隙にバッグを強奪された。(アルル)
- ・夜間、高速道路のサービスエリアの駐車場にレンタカーを駐車して仮眠していたところ、4人組の男に窓ガラスを割られ、車外に引きずり出されて貴重品を奪われた。抵抗したため暴行を受け、大ケガを負った。(トゥーロン)

(2) 窃盗被害

- ・レストランで食事をしていた際、バッグを席において洗面所に向かったところ、戻ってきたら財布が盗まれていた。(マルセイユ)
- ・旧港において観光名所を訪問していたところ、バッグに入れていた財布と旅券を盗まれた。(マルセイユ)
- ・ノートルダム・ドウ・ラ・ガルド教会を観光中、ショルダーバッグ内から財布と旅

券を盗まれた。(マルセイユ)

・路面電車を待っていたところ、置いていたバッグの中から財布と旅券が盗まれた。

(ニース)

・列車で旅をしていたところ、バッグ内から旅券と貴重品が盗まれた。(ニース)

・レストランで食事中、足下に置いてあった鞆が盗まれた。(ニース)

・美術館の駐車場に車を駐車して観光後、車に戻ってきたところ窓が割られ車内に置いてあった旅券と貴重品を盗まれた。(ニース)

・美術館で絵画を鑑賞中、背負っていたデイバッグがナイフで切られ、貴重品入りのポーチを盗まれた。(ニース)

・満員のトラムに乗車しようとしたところ、何者かに後ろから押され、その際にショルダーバッグから財布が盗まれた。(ニース)

・アパート型ホテルに宿泊中、外出して戻ると室内が荒らされ、貴重品が盗まれた。(カンヌ)

・レストランで食事をしていたところ、置いてあったバッグの中から財布と旅券を盗まれた。(ニース)

・歩道を歩いていたところ、前方から来た男にショルダーバッグを無理矢理ひったくられた。男は共犯者の運転するバイクで逃走した。(マルセイユ)

・街頭で女性が話しかけて来たので、そちらに気を取られていたところ、後ろから近寄ってきた子供にショルダーバッグの中の旅券を盗まれた。(マルセイユ)

・高速道路のガソリンスタンドで給油後、精算するために事務所に行っている間に、車に置いていた鞆を盗まれた。(アヴィニオン)

・ホテルをチェックアウトしてレンタカーに荷物を詰め込んだ後、最後に主人に挨拶をしに行っている間に車のガラスを割られて荷物をすべて盗まれた。(アヴィニオン)

・車を運転中、追突されたので、相手の運転手と話をするため降車したところ、男が車のドアを開けて鞆を盗んで逃走した。(モンペリエ)

・外出中に、ホテル客室内のスーツケースから貴重品の入ったポーチを盗まれた。(マルセイユ)

・スーツケース(プラスチック製)を施錠して室内の手すりに鍵で固定していたが、ファスナー部分を切り裂かれてポーチを盗まれた。(マルセイユ)

4 防犯のための具体的注意事項

(1) 外出時(観光時)

アジア人観光客は、犯罪者から「土地勘がない。言葉が不自由。大金(現金)を持っている。体格が小さいので犯行が成功しやすい。従って逮捕されにくい」というイメージを持たれており、犯罪の標的になりがちですので、外出時は十分に注意してください。

ただ「周りに気をつける」という意識上の注意だけではなく、外出場所や時間を工夫したり、持ち物を減らしたり鍵をかけるなど物理的に盗難に遭わないような工夫をしましょう。

また、チケットの購入やATMの利用の手助けを装ってお金やカードを騙し取る詐欺

も多いので、話しかけてくる人を安易に信用したり、お金やカードを渡したりすることはやめましょう。

(例) 盗まれる可能性のある貴重品は持ち歩かない。

- ・バッグ等所持品の数はできるだけ減らす。
- ・バッグはファスナーやフラップ付きなど、中に手を入れにくい構造のものをを選び、さらに開閉部分に手を置いたり錠を取り付けるなどして取られにくい状態にする。
- ・たすき掛けにして荷物部分を体の前にしておく。
- ・店内では、椅子やテーブル、自分の足などにバッグの紐部分を結びつけるなどして簡単に持ち去れないように固定しておく。
- ・訪問先についてよく調べ、危険とされる場所の訪問や通過は避ける。
- ・夜間（早朝）等視界が悪い時間帯の外出は避ける。
- ・自分に近づいてくる人やバイク、車に注意し、距離をとる。
- ・ホテルや車の出入りの際、周囲に自分のことを見ている人がいないか確認する。
- ・駐車中でも運転中でも、ドアロックは確実におこない、車外から見える場所に貴重品を置きっぱなしにしない。

(2) 日常生活

南仏で生活されている方は、自分の生活圏に潜んでいる危険を把握し、それをできるだけ避ける生活スタイルを構築しましょう。

情勢は日々変わり続けていますので、ニュースや現地の人から情報を入手して、日々、最新の情報を入手しましょう。

また、日々の生活の中で治安悪化の兆候となるちょっとした変化を感じ取り危険を避けるようにしましょう。

(例) 生活圏で発生している犯罪の種類や発生場所を知る。

- ・生活圏にある宗教施設や政府機関など、テロや犯罪の対象となり得る場所を把握する。
- ・新聞やニュースレターを定期購読したり、スマートフォンのアプリで事件情報を入手する。定期購読やアプリのプッシュ通知機能等で、忙しくても自動的に配信されるようにするとなおよい。
- ・現地の人々から治安に関する意見を聞く。自分が「犯罪に関する情報に関心がある」ことを伝え、何かあったら知らせてもらえるようお願いする。
- ・壁の落書きや路上のゴミ、その他違反行為等、治安の悪化につながる「秩序の乱れ」に敏感になる。

5 犯罪被害に遭ったときの対応

(1) 警察への届出

フランスでは、被害に遭った場所にかかわらず、どこの警察・憲兵隊に対しても被害届を提出することができます。

(2) 旅券紛失時の発給手続き

旅券の盗難や紛失の際は、旅券の再発給又は「帰国のための渡航書」発給等の手続きをとる必要があります。

【申請に必要な書類】

- ① 警察の盗難届証明書 (Recepisse de declaration de vol)
- ② 写真2葉 (縦4.5cm×横3.5cm、最近6か月以内に撮影のもの)
- ③ 戸籍謄本または戸籍抄本1通 (6か月以内のもの)
- ④ 本人確認のできる書類 (日本の運転免許証など)
- ⑤ 日本への航空券予約票など (「帰国のための渡航書」の申請時のみ)
- ⑥ 発給手数料 (当総領事館窓口でご確認下さい。)

(3) クレジットカード紛失時の使用停止手続き

早急に使用停止手続きを取りましょう。この手続きは本人が行う必要があります。また、下記に案内する番号は、コレクトコール可と書いてあるもの以外、原則、固定電話からは無料で通話が可能ですが、携帯電話のプランや設定によっては料金が発生することがあるとのことです。ご留意の上、ご利用ください。

【主要クレジットカードの連絡先】

- ① アメリカンエクスプレス
TEL : +81-3-3220-6100 (24 時間日本語対応、コレクトコール可)
- ② ビザカード (Visa Card)
TEL : 0-800-919-552 (24 時間日本語対応)
- ③ マスターカード (Master)
TEL : +1-636-722-7111 (24 時間日本語対応、コレクトコール可)
TEL : 0-800-901-387 (24 時間日本語対応)
- ④ JCBカード
TEL : 00-800-0009-0009 (24時間日本語対応)
TEL : +81-422-40-8122 (コレクトコール可)
- ⑤ UCカード
TEL : 00-800-8005-8005 (24時間日本語対応)
TEL : +81-3-6893-1641 (コレクトコール可)
- ⑥ DCカード
TEL : 00-800-3770-1818 (24時間日本語対応)
TEL : +81-3-3770-1818 (コレクトコール可)

6 テロ対策

(1) フランスにおけるテロ情勢

2015年以降に発生した主なテロ事件は以下のとおりです。

- シャルリ・エブド社襲撃事件（パリ、2015年1月）
- パリ同時多発テロ事件（パリ、2015年11月）
- トラック突入によるテロ事件（ニース、2016年7月）
- 警察官襲撃事件（パリ、2017年6月）
- 国家憲兵隊車両への車両突入事件（パリ、2017年6月）
- 仏軍兵士襲撃事件（パリ郊外、2017年8月）
- 通行人殺害事件（マルセイユ駅、2017年10月）
- 銃器使用殺傷事件（トレーブ、2018年3月）
- 通行人殺害事件（パリ、2018年5月）
- クリスマスマーケット付近銃撃事件（ストラスブール、2018年12月）
- スーツケース爆発事件（リヨン、2019年5月）
- 通行人刺殺事件（リヨン、2020年4月）
- 教会における刃物使用殺傷事件（ニース、2020年10月）

治安当局によるテロ予備行為の摘発も多数なされており、テロの脅威はフランス全土に及んでいると言えます。

(2) テロの被害に遭わないために

テロの標的になりやすい場所は以下のとおりです。

- 多くの人が集まる場所やイベント
（例）空港、駅、ショッピングセンター、革命記念日
- 宗教関連施設・政府機関など
（例）教会、ユダヤ教集会所、軍事施設、警察署、県庁舎

テロの標的になるような場所への訪問をできるだけ避け、もし訪問する場合でも、人出の少ない曜日や時間帯に訪問し、滞在時間を短くするなどして、できるだけ危険度を低くする努力をしましょう。

(3) テロに遭遇した場合

もしテロに遭遇した場合、例えば爆発音や銃声が聞こえた場合には、直ちにその場に伏せるか物陰に隠れるなどして第一撃から身を守りましょう。

その後、第二の攻撃や群衆の混乱、治安部隊との銃撃戦に巻き込まれることを避けるため、できるだけ速やかに遠くに離脱してください。

テロリストがすぐ近くにいるなど、もし逃げるのが困難だと判断した場合は、どこかに隠れてください。隠れる場合には、コンクリート壁等の硬いものの裏に隠れる、部屋の鍵をかける、電気を消す、携帯電話をミュートにするなど、できるだけ見つからないようにして救助を待ちましょう。

テロ対策に役立つホームページを紹介します。

- 外務省「海外安全ホームページ（情報の収集）」

<https://www.anzen.mofa.go.jp/life/>

- 外務省「ゴルゴ13の中堅・中小企業向け海外安全対策マニュアル」

https://www.anzen.mofa.go.jp/anzen_info/golgo13xgaimusho.html

- フランス国家警察（事件、救急、消防の連絡先ページ）

<https://www.prefecturedepolice.interieur.gouv.fr/Vous-aider/Accueil-du-public/Urgences/Numeros-d-urgence>

- フランス国家警察（テロ対策ページ）

<https://www.prefecturedepolice.interieur.gouv.fr/Vous-aider/Face-aux-risques/Malveillance-et-risque-terroriste/Que-faire-en-cas-d-attentat>

7 衛生管理

2019年12月末に中国の武漢で発生した新型コロナウイルス（COVID-19）の流行が、フランスを含む世界中に拡大し、多数の感染者及び死者が出ています。

冷静に対応するためにも、風評やデマ情報に惑わされないことが大切です。平素の健康管理と衛生管理に関する情報収集に役立つサイトを紹介します。

【フランス】

- 連帯保健省「Ministère des Solidarités et de la Santé」

<https://solidarites-sante.gouv.fr/>

- 保健局「Santé Publique」

<https://www.santepubliquefrance.fr/>

- プロヴァンス＝アルプ＝コートダジュール地域保健局（Agence régionale de santé Provence-Alpes-Côte d'Azur）

<https://www.paca.ars.sante.fr/>

- オクシタニー地域保健局（Agence régionale de santé Occitanie）

<https://www.occitanie.ars.sante.fr/>

- コルシカ地域保健局（Agence régionale de santé Corse）

<https://www.corse.ars.sante.fr/>

- 保健局「新型コロナウイルス検査機関検索サイト」

<https://www.sante.fr/cf/carte-depistage-covid.html>

【日本】

- 外務省「海外安全ホームページ」

<https://www.anzen.mofa.go.jp/index.html>

- 厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/index.html>

- 厚生労働省FORTH（海外で健康に過ごすために）

<https://www.forth.go.jp/index.html>

- 国立感染症研究所

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>

8 緊急連絡先電話番号（警察等）

【緊急時】

- 警察 TEL:17
- 救急車 TEL:15
- 火災・救急 TEL:18
- 上記全般（EU域内共通）TEL:112

【フランス国家警察「警察署」・「憲兵隊事務所」検索サイト】

郵便番号や住所から最寄りの警察署・憲兵隊事務所を検索できます。

<https://www.interieur.gouv.fr/Contact/Contacter-une-brigade-de-gendarmerie-ou-un-commissariat-de-police?adresse=31000&country=FRA>

【市役所】

- マルセイユ市役所 TEL:04. 91. 55. 11. 11
Place Villeneuve-Bargemon, 13002 Marseille
- トゥールーズ市役所 TEL : 05. 61. 22. 29. 22
1 place du Capitole, BP 999, 31040 Toulouse Cedex 6
- ニース市役所 TEL : 04. 97. 13. 20. 00
5 Rue de l' Hôtel de ville, 06364 NICE
- アジャクシオ市役所 TEL: 04. 95. 51. 52. 53
Avenue Antoine Serafini - BP 412, 20304 Ajaccio

【空港】

- マルセイユ・プロヴァンス空港(Aéroport Marseille Provence) TEL:08. 20. 81. 14. 14
- ニース・コートダジュール空港 (Aéroport Nice Côte d'Azur) TEL:08. 20. 42. 33. 33
- トゥールーズ・ブラニャック空港(Aéroport Toulouse-Blagnac) TEL:08. 25. 38. 00. 00

【鉄道】

- S N C F（フランス国鉄）3635

【病院等の医療機関】

- マルセイユ
救急医師（SOS MEDECINS MARSEILLE）TEL:04. 91. 52. 91. 52
21 Rue Capit Dessemond 13007 Marseille

●ニース

救急医師 (SOS MEDECINS NICE) TEL: 04. 93. 85. 01. 01
23 Rue Comté Vert Amédée VI, 06000 NICE

●トゥールーズ

救急医師 (SOS MEDECINS TOULOUSE) TEL: 05. 61. 33. 00. 00
24, Route D'Espagne 31100 Toulouse

【フランス国内病院検索サイト「HOPITAL.fr」】

郵便番号や地図から国内の病院を検索することができます。お住まいの最寄りの病院検索にご利用ください。

<https://www.hopital.fr/>

【在仏在外公館】

●在フランス日本国大使館 TEL: 01. 48. 88. 62. 00

https://www.fr.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

●在ストラスブール日本国総領事館 TEL: 03. 88. 52. 85. 00

https://www.strasbourg.fr.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

●在リヨン領事事務所 TEL: 04. 37. 47. 55. 00

https://www.lyon.fr.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

II 緊急事態対処マニュアル

1 総論

2015年1月の新聞社襲撃事件、同年11月のパリ連続テロ事件、及び2016年のニースにおけるトラック突入事件など、フランスにおけるテロの脅威は、以前にも増して高まっています。

また、大規模な事件・事故が発生した場合など、日常生活に甚大な影響を及ぼす可能性もあります。

そのような緊急事態に際して、在留邦人の皆様が的確、且つ迅速に対応できるよう「平素の心構え」「準備」「緊急時の行動」について、最も重要と思われる点を簡単にまとめました。

以下を参考にさせていただき、緊急時に落ち着いて行動できるよう心掛けてください。

【平素の心構え】

緊急時に最も重要なことは、発生している事件や災害等に関し、「いかにして正しく正確な情報を入手するか」です。

何処でどのようなことが起きているのか、発生した事態により誰がどのように影響を受けているのかといった情報を集めることや、家族や知人、友人、同僚などの家族の安否情報、さらにはこの事態にどう対処すればいいのか等、これらの情報を集めるとともに、自

分や家族の安否情報を関係する人に発信する必要があります。

そのためにはパニックに陥らないよう、予め関係者の連絡先を書いたリストを作るなどし、想定される避難場所を決めておく必要があります。

また、このような緊急事態が発生した際には流言飛語（デマ）が飛び交うことが多いので、確実な情報に基づいて行動する冷静さが必要です。

【準備】

●食料品等の備蓄

緊急事態発生時には付近での買い物が困難になる可能性がありますので、保存期間の長い食料、飲料水、乾電池等を、ある程度保管しておくことをお勧めします。

新型コロナウイルスの感染者が急増してきた時、スーパーマーケットに買い物客の長蛇の列ができて商品の在庫が少なくなり、一時的にですが危機的な状況になりました。

●連絡体制の整備

在留届は提出していますか？在留届は外国に3ヶ月以上滞在する方が提出することになっています。緊急時の連絡先を把握する資料として非常に役立ち、領事サービスを提供する際の基礎になるものですのでご提出ください。次のリンクからオンラインで提出することもできます。

オンライン在留届

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html>

また、住所、電話などの記載事項の変更や帰国、転勤などフランスを離れる際にも必ずご連絡ください。

変更届、帰国・転出届を提出する方

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/residencereport/login>

- ① フランスに3ヶ月以上滞在される方は在留届を提出してください。
- ② 緊急事態に備え、家庭や会社、団体などを構成する方はそれぞれの日常の行動、通勤、通学の経路、利用交通機関などの情報をお互いに把握しておいてください。
また、知り合いや身近の方でグループを作るなどし、緊急時に連絡を取り合うネットワークを作成し、万が一に備えることをお勧めします。
- ③ 緊急事態が発生した場合は、在留届を提出しメールアドレスを記載している方には緊急メールを送信する他、当館ホームページ (https://www.marseille.fr.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html) を通じ、情報を発出します。
なお、NHK海外放送（テレビのみならず短波ラジオ放送を含む）などを通じて情報を提供することがありますので、これらメディアにもご注意ください。
また、場合によっては登録されている携帯電話にSMSによる安否照会を実施することもあります。

- ④ 緊急時には携帯電話は長時間使用不可能になることも想定されます。場合によっては、固定電話も不通になることもあり得ますので、そのような場合の情報伝達手段につき予め検討しておく必要があります。
また、緊急時の集合場所、一時避難先などを予め決めておくことをお勧めします。
- ⑤ 緊急連絡先などはメモにして常時携帯するようにしてください。携帯電話のメモリーはバッテリーが有効な間しか使用することが出来ませんので、メモリーに頼ることは十分ではありません。
- ⑥ なお、在留届とは別に3ヶ月未満の渡航者向けに、自分の旅行日程等を登録する「たびレジ」があります（<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>）。この「たびレジ」に登録することにより、渡航先国の大使館が発出する緊急メールを受け取ることが出来ますので、出張や旅行で外国外に行かれる際は、是非ご利用ください（具体的な旅行等日程が決まっていなくても登録できる簡易登録機能もあります）。

【緊急時の行動】

緊急時には、事態の迅速・正確な把握が困難なこともあり、パニックに陥りがちです。冷静に、落ち着いて、まずは連絡すべきところに連絡するよう心掛けましょう。

テロ・爆発事件等の緊急事態に遭遇した場合、被害を最小限に抑えるため、例えば次の点について心がけることをお勧めします。

（1）予防措置

- ア 退避ルートを確認する。
- イ 隠れられる場所を確認する。
- ウ 常に周囲の状況に注意を払い、不審者や不審物を見かけたら速やかにその場を離る。

（2）対処法

- ア その場に伏せるなど直ちに低い姿勢をとる。
- イ 頑丈なものの陰に隠れる。
- ウ 周囲を確認し、可能であれば、銃撃音等から離れるよう、速やかに、低い姿勢を保ちつつ安全なところに退避する。
- エ 安全を確保した後、総領事館、或いは勤務先や家族等に安否の連絡をする。

2 【緊急事態に備えてのチェックリスト】

- 旅券・6ヶ月以上の有効期間があること。
- 最終ページの「所持人記載欄」を記入しておく。
- 滞在許可証・すぐに持ち出せる状態にしておく。
- 現金・家族全員が10日間生活できる程度の現金
- 預金通帳・すぐに持ち出せるように準備
- クレジットカード
- 自動車・整備を怠らず、燃料は十分に入れておく。
- 懐中電灯、地図、工具などを備えておく。
- 衣類・一定期間外泊できる数量を準備
- 麻や綿など吸湿性や耐暑性に富む長袖・長ズボン
- 履き物・底が丈夫なもの
- 洗面用具等・タオル、石けん、歯ブラシ、歯磨き等
- 非常用食料・約10日分の米、缶詰、インスタント食品、
- 調味料、ミネラルウォーター等
- ラジオ・AM／FM放送、NHK海外放送等の短波放送が受信可能な電池式のもの。
- 予備電池
- その他・懐中電灯、ライター、ろうそく、ナイフ、缶切り
- 栓抜き、紙食器、固形燃料、簡易炊事道具等

在マルセイユ日本国総領事館
Consulat Général du Japon à Marseille
70 avenue de Hambourg
13008 Marseille, France
TEL : 04.91.16.81.81 (代表)
FAX : 04.91.72.55.46
メール : cgm8@my.mofa.go.jp